

## 令和4年度第2回歯科保健医療対策会議要旨

日時：令和5年2月14日（火）13:30～14:30

場所：富山県民会館 301号室

主な意見は以下のとおり。

- ・要介護者障害者の最終評価の数字が下がったのは、コロナの影響なのかどうか、何か特別な影響があるのかどうか。働く世代はすべてD評価だが、県民が危機意識を持つためには、データがあるのであれば、市町村別の実績を公表した方がよいのではないか。

(事務局) 障害児者入所施設、介護老人福祉施設等での定期的な歯科検診の実施率についてはご指摘の通り。コロナ前までは順調に実施率が上がったが、コロナになり実施率がぐっと下がり、コロナの影響かと考えている。「県民歯科疾患状況調査」により成人の歯周病の有病状況を確認しているが、市町村別集計を念頭に置いていない調査方法である。ご指摘いただいた点は、次期計画策定時等に対応を検討していきたいと思う。

- ・障害者の入所施設での定期的な歯科健診実施率の増加について、健診も大事だと思うが、罹患率が全く見えてこない。今後、予防は大事で健診をされるのはいいのだが、歯磨きがしにくいとか、受診がなかなか難しい方が結構いる。受診が難しい方に対しては、できればむし歯にならないようにする、歯周病にならないようにするというのが大事だと思う。

(事務局) 学校歯科健診は有病状況等を報告する仕組みになっているので把握できるが、介護施設、障害児者の施設はそういう仕組みになっていないので、現在把握できていないのが実情。その中で県としては、障害者への歯科保健指導ができるように歯科衛生士を養成する事業を実施している。そこでスキルを身につけていただいた歯科衛生士に、障害をお持ちの方の予防を行ってもらいたいと考えている。

- ・大体どのような状況であるか、例えば施設ごとにでもわかればよいと思う。

(事務局) 現状で歯科健診や歯科保健指導がどのように実施されているか歯科医師や歯科衛生士に確認しながら、続けていければと思っている。

- ・そもそも歯周病の原因は何か。PRはしているのか。男女差はあるのか。

(会長) 口の中にたまった細菌による炎症で、歯周病予防策は、細菌を少なくする、歯ぐきの状態をよくする、抵抗力をよくすること。皆さん忙しいし、口の中の関心が弱い。歯科医師会もホームページに「健康寿命の延伸は口から」と掲載しPRしているが、なかなか広がっていないのが現状。そういう意味でも国の方でも取り組んでいる健診が一番大事だろうと思う。男女差はあると思う。

- ・今後、コロナが5類感染症になった時に、歯科受診、歯科治療、あるいは学校においてフッ化物洗口、それがどうなっていくか。歯科医師会や厚労省からきちんとしたガイドラインが出てくるとは思うが、それが出た時点で学校、乳幼児のところに情報としてシェアする必要があると思う。

(事務局) 現状で何がどうなるというのはわかっていないが、国の動きを見ながら、必要に応じて対応していきたい。

(会長) 2類から5類に変わるという話はもう政府で明確に出している。こういうところを注意し

てほしいと話が出てくれば関連団体に示したいと思っている。

- ・う蝕と歯周病の予防は、いままでどおりきちんと対応していかなければいけないが、今一番感じていることは、口腔機能。健康寿命と平均寿命の差が十年間あり、いかにそれを縮めていくかが大事。その中でやはり口腔機能はとても大事だと思う。口腔機能は年を取ってから何とかすればいいということではなく、0歳からもう始まっている。ただ、乳幼児、子どもの口腔機能が評価されていないので気づいていない。子どもの口腔機能は落ちているが気づいていない。いかに気づいていただき健康教育に生かしていくか、これを取り入れてほしいと思う。

- ・フッ化物洗口をむし歯が少なくなるので進めたいと図表が出ているが、有意差とか何も書いていない。ちゃんと効果があるのであれば、フッ化物洗口をした群と、していない群で評価をすることがまず第1。

歯を磨くだけではなく、ぜひ歯肉マッサージを口の磨き方の1つに入れていき、そのような口腔ケアを考えていかなければならない。

- ・フッ化物洗口に取り組んでいこうと検討しているが、なかなか100%には繋がっていかない。各園に看護師も常駐しているところがたくさんある。そういう方々にフッ化物洗口をすることにより、むし歯になる子が少なくなると説明会なども行ってもらえればと思う。また砺波市と南砺市が100%を維持している。これは何か手法があるのか、他の市町村で実施ゼロのところもある。

(会長) フッ化物洗口は、歯が萌出する時、永久歯が生え変わる時が大事なので、歯科医師会としてもこの時期を重視してやっている。市町村が主体であり、県としても歯科医師会としても力を入れていきたいと思う。

- ・今から10年ほど前は、フッ化物洗口が全部できなかったが、ちょっとしたきっかけで、全ての小中学校ができるようになった。子どものときにフッ化物洗口を実施するとその後もむし歯のない状態を持続していると聞いている。

また保健師が高齢者を集めて口腔ケアやオーラルフレイルの説明に回っている。みんなで歯周病にならないために歯みがきの仕方、歯ぐきのマッサージについて何度も聞く機会を作っている。

- ・フッ化物洗口は、市町村の差があるということだった。コロナ禍にあって、市町村の保健事業としては、ワクチン接種等事業もある中で、新しい事業に取り組むというのはなかなか難しい。エビデンスやその成果を会議の場で情報提供いただき、それぞれの市町村で取り入れていく、計画に基づいて推進していく機会になればいいと思う。

- ・食生活改善推進連絡協議会では、生活習慣病を主にしているが、最近フレイル予防に力を入れている。その中の1つとしてオーラルフレイルにも大変興味を持っていただいている。歯をしっかり持つことは健康寿命の延伸になるため、広報、宣伝していくことが必要である。

- ・成人、高齢期の歯周病重症化予防について、ポピュレーションアプローチの場合、フレイル予防が重点的になる。たんぱく質を摂りなさい、運動をきなさい、社会参加しなさいと、この三本柱だが、そうではなく、まず先に、口腔ケア、口の中を丈夫にしてから栄養が摂れるのですよということで、資料に必ず口腔ケアを入れている。そういう意味でフレイル予防の資料を作るときには、必ず口腔ケアも入れていただきたいと願っている。

災害時における取組みだが、避難所における食事形態が全く異なるため、当然誤嚥性肺炎の危険性を伴う。食生活改善推進員、栄養士、歯科衛生士、歯科医師で、一緒に災害時における組織づくり、多職種連携で取り組めたらよいと願っている。

・高齢者の残存歯は多くなってきている。今回のデータでは歯周病も書いてあるが、つばも少なくなつて、話をしなくなってくると歯の根のむし歯が非常に多くなってくることが予想される。この点も課題の一つと思う。

(会 長) この最終案については、いろいろな意見が出たが、いただいたご意見については、こちらで協議させていただいて、会長一任していただければと思っている。